

令和6年度 東京都内湾水生生物調査 1月鳥類調査 速報

●実施状況

令和7年1月17日に鳥類調査を実施した。調査当日は中潮で、干潮が13:03(84cm)、満潮は07:21(175cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	葛西人工渚(東なぎさ)	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
調査時刻	8:56-10:36	13:04-13:49	11:20-12:42
調査時間(分)	100	45	82
天候	晴	晴	晴
気温(℃)	7.0	10.9	9.1
風向	北	北	北
風速(m/sec)	4.5	3.5	3.5
備考	調査開始時、潮位が高く、干潟の干出がとても少なかった。	最干潮時刻でも干潟の干出は少なかった。調査終了時、風がやや強くなってきた。	海浜公園側では観光船が多かった。

●主な出現種等

	葛西人工渚(東なぎさ) ※沖合含む	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
数が多かった 鳥類上位3種	スズガモ(3259羽) カンムリカイツブリ(2574羽) カワウ(1411羽)	コガモ(142羽) ユリカモメ(47羽) ハクセキレイ(26羽)	カワウ(1570羽) ユリカモメ(644羽) スズガモ(335羽)
備考	・クロツラヘラサギ、ヒクイナ、シロチドリ、ハマシギ、ミサゴ、ハヤブサ等、重要種として14種を確認。 ・干潟でシロチドリ、ハマシギ、イソシギが採餌、ヨシ原付近でタシギとイソシギが休息。 ・東なぎさ上空をミサゴ、トビ、ハヤブサが飛翔。カワウ1380羽が通過。 ・東なぎさの護岸でクロツラヘラサギ5羽が休息。 ・ヨシ原でヒクイナの鳴き声が聞かれた。 ・海上でスズガモとカンムリカイツブリ、ハジロカイツブリの群れが休息。沖合をユリカモメの群れが飛翔。	・ミサゴ等、重要種として5種を確認。 ・干潟を利用する鳥は見られなかった。 ・カモ類はオカヨシガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロの6種が見られた。 ・カワウに混じりウミウ1羽が休息。 ・ミサゴとトビが上空を飛翔。 ・護岸でイソシギ、ハクセキレイ、タヒバリが採餌。アオサギが構造物上で休息。 ・オオバンとユリカモメが水面で主に採餌。	・オオバン等、重要種として8種を確認。 ・第六台場と鳥の島でカワウの営巣が始まり、ヒナの姿が見られた。第六台場で847巣、鳥の島で296巣を確認。アオサギは61羽を確認した。 ・カモ類はコガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサの5種が休息。 ・お台場海浜公園でカンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、ユリカモメが休息、オオバンが主に採餌。 ・トビ150羽を確認。

●出現種と個体数

No.	目	科	種名	令和7年 1月							重要種 選定基準				
				葛西人工渚(東なぎさ)			森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園			文化財 保護法	種の*1 保存法	環境省*2 RL2020	東京都*3 RDB2023 (区部)	
				範囲 内	沖合	合計		第六 台 場	鳥 の 島	公 園 側					合計
1	カモ	カモ	オカヨシガモ				14								
2			カルガモ				7								
3			ハシビロガモ				8								
4			オナガガモ	4		4	8								
5			コガモ				142		2		2				
6			ホシハジロ		6	6	14			4	4				VU
7			キンクロハジロ							1	1				
8			スズガモ	760	2499	3259			172	163	335				留
9			ウミアイサ						12	6	18				DD
10	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	1479	1095	2574			13		13				留
11			ハジロカイツブリ	105	432	537			1	1	2				NT
12	カツオドリ	ウ	カワウ	1411		1411	17	1173	397		1570				
13			ウミウ	4	2	6	1								
14	ペリカン	サギ	アオサギ	9		9	13	48	12	1	61				
15			コサギ	1		1									VU
16		トキ	クロツラヘラサギ	5		5							国内	EN	CR
17	ツル	クイナ	ヒクイナ	1		1								NT	CR
18			オオバン				16			20	20				CR
19	チドリ	チドリ	シロチドリ	41		41								VU	CR
20			タシギ	1		1									VU
21			イソシギ	2		2	5		5	1	6				VU
22			ハマシギ	7		7								NT	VU
23		カモメ	ユリカモメ		190	190	47		21	623	644				
24			セグロカモメ	8		8	2		1		1				
25	タカ	ミサゴ	ミサゴ	1		1	1							NT	EN
26		タカ	トビ	2		2	2	146	1	3	150				NT
27	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	1		1							国内	VU	EN
28	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ	2		2	26	1	3	10	14				
29			タヒバリ				1		3	1	4				
計9目13科29種				19 種	6 種	21 種	17 種	4 種	13 種	12 種	16 種	0 種	2 種	6 種	16 種

※種の分類・配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会, 2012)に従った。

*1 文化財保護法：特天=特別天然記念物

*2 種の保存法：国際=国際希少野生動植物種、国内=国内希少野生動植物種

*3 環境省レッドリスト2020：CR=絶滅危惧ⅠA類、EN=絶滅危惧ⅠB類、VU=絶滅危惧Ⅱ類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足

*4 東京都レッドデータブック2023(区部)2023年版：CR=絶滅危惧ⅠA類、EN=絶滅危惧ⅠB類、VU=絶滅危惧Ⅱ類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足、留

<葛西人工渚(東なぎさ)>

○調査地点の状況

干潟はわずかで、調査中に徐々に広がっていった。



西側の地点より南西方向を見る



○出現種(シギ・チドリ類)

シロチドリ 41 羽、イソシギ 1 羽、ハマシギ 7 羽が干潟で採餌。タシギ 1 羽とイソシギ 1 羽がヨシ原付近で休息していた。シロチドリは環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠA類(CR)、ハマシギは環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、タシギとイソシギは東京都レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



シロチドリ



ハマシギ



イソシギ

○出現種(クロツラヘラサギ)

5 羽のクロツラヘラサギが東なぎさの消波ブロックで休息していた。本種は種の保存法で国内希少野生動植物種、環境省レッドリストで絶滅危惧ⅠB類(EN)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠA類(CR)に指定されている。



○干潟利用状況

引き潮で干潟が拡大するとシギ・チドリ類が採餌、セグロカモメが休息するようになった。また、荒川から浦安方面に向かって 1380 羽のカワウが通過した。



セグロカモメ(矢印)とシロチドリ

○出現種(猛禽類)

東なぎさ上空でミサゴ、トビ、ハヤブサが確認された。このうちハヤブサは種の保存法で国内希少野生動植物種、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。



ハヤブサ

○海面の状況

スズガモ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリの群れが範囲内から沖合にかけて見られた。範囲内の個体数はスズガモ 760 羽、カンムリカイツブリ 1479 羽、ハジロカイツブリ 105 羽であった。東京都レッドデータブックでハジロカイツブリは準絶滅危惧(NT)、スズガモとカンムリカイツブリは留意種に指定されている。また、ユリカモメ 190 羽が沖合から荒川方面に飛翔した。



ハジロカイツブリ(丸印)、カンムリカイツブリ、スズガモの群れ

＜森ヶ崎の鼻＞

○調査地点の状況

最大干潮時刻だが、干潟はわずかに干出したのみ。



○出現種(カモ類)

オカヨシガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロの 6 種が確認された。調査地北東側の京浜島から森ヶ崎水再生センター付近でオカヨシガモ、ハシビロガモ、コガモが採餌、カルガモとホシハジロが休息、オナガガモが飛翔、南西側の護岸上でコガモが休息していた。



○出現種(タカ類)

上空を飛翔するミサゴとトビが確認された。ミサゴは環境省レッドリストで準絶滅危惧 (NT)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧 I B 類 (EN)、トビは東京都レッドデータブックで準絶滅危惧 (NT) に指定されている。



○出現種(ウミウ)

流木の上でカワウと共に休息する 1 羽が確認された。



○出現種(ハクセキレイ)

護岸で採餌する個体が多く、26 羽が見られた。



○出現種(ユリカモメ)

調査地南側で採餌する個体が多く、47 羽が見られた。



○干潟利用状況

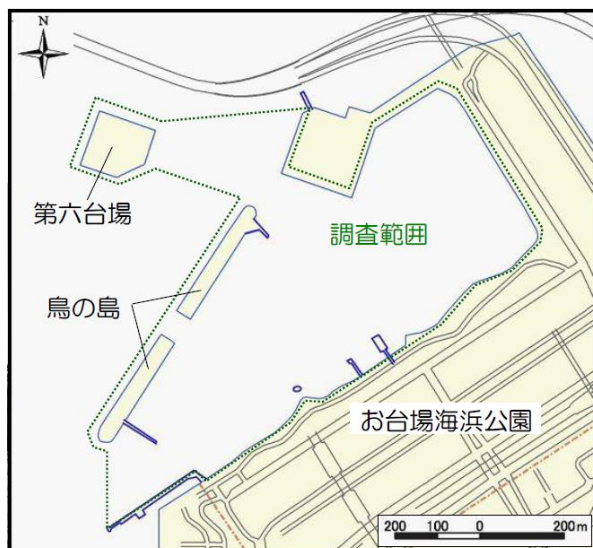
干潟に鳥は見られなかった。



<お台場海浜公園>

○調査地点の状況

第六台場・鳥の島でカワウが多数営巣していた。



○出現種(カワウ)

カワウが抱卵・^{いくすう}育雛中で、第六台場で847 巣、鳥の島で 296 巣、合計 1143 巣が確認された。営巣数は平成 30 年度以降で最多である。第六台場ではヒナの鳴き声がよく聞かれ、大きく育ったヒナの姿が観察された。鳥の島ではヒナの声が少なく、多くの巣は抱卵中と考えられた。巣立った幼鳥はまだ見られなかった。



○出現種(アオサギ)

アオサギは第六台場で 48 羽、鳥の島で 12 羽、お台場海浜公園で 1 羽、合計 61 羽が確認された。第六台場では地面に多数降りて休息していたが、営巣に関わる行動は見られなかった。



○出現種(カモ類)

コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサの 5 種が、鳥の島からお台場海浜公園にかけての海上で見られた。スズガモがもっとも多く、335 羽が休息していた。東京都レッドデータブックでホシハジロは絶滅危惧Ⅱ類(VU)に、ウミアイサは情報不足(DD)に指定されている。



○出現種(ユリカモメ)

644 羽が確認され、このうち 623 羽が公園内の人工海浜や水面に降りて休息していた。



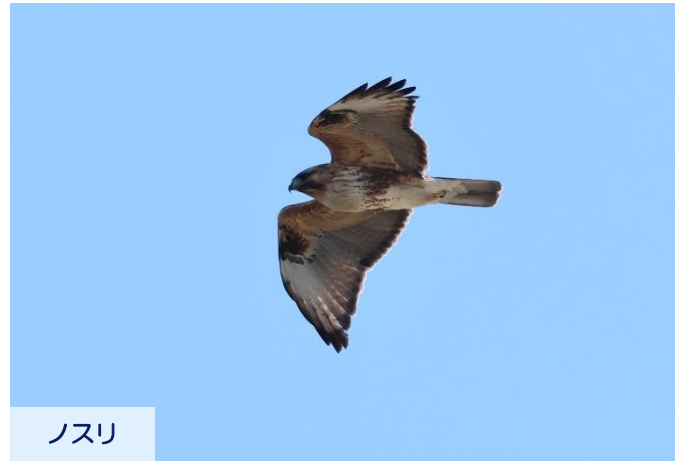
<その他>

○ウミネコの繁殖

砂町運河でウミネコは確認されなかった。付近でヒドリガモ 4 羽、カワウ 2 羽、アオサギ 1 羽、オオバン 3 羽、ユリカモメ 40 羽、ノスリ 1 羽、タヒバリ 1 羽が確認された。



ウミネコが営巣する構造物



ノスリ

<トピックス>

-トビの飛来数が急増-

第六台場でトビ 146 羽が確認され、鳥の島とお台場海浜公園を合わせた個体数は 150 羽であった。これは、お台場海浜公園における過去最多の個体数である。第六台場では、樹上にとまって休息する様子や上空を旋回飛行するのが確認された。また、一部の個体が地上から何かをつかみ取り、採餌する様子が見られた。獲物は特定できなかったが、カワウが吐き戻した魚、カワウのヒナの死体を求めてトビが集まってきた可能性がある。



樹上にとまるトビの群れ

上空を飛ぶ